

資源管理に必要な情報の提供事業 -

定置網漁獲統計調査

久野正博

目的

定置網に関する詳細な漁海況情報を蓄積することにより、資源管理を行っていくための基礎資料とする。

方法

三重県内の大型定置漁場のうち、相差・志島・片田・和具・阿曾・贄・方座・錦・島勝・須賀利・九鬼1号・九鬼2号・早田・梶賀・阿田和1号・阿田和2号の16漁場を対象に平成17定置年度(平成17年10月~平成18年9月)の魚種別漁獲量を調査した。平成15定置年度から2年間休漁していた和具漁場が操業再開し、集計に加えた。

結果

詳細については平成17定置年度(平成17年10月~平成18年9月)三重県ブリ定置漁獲統計で報告したので、以下は結果の概略を示す。

平成17定置年度の総漁獲量は6,601トンで前年度比135%であった。魚種別ではサバ(ゴマサバとマサバ)が1,394トンと最も多く全魚種の23.0%を占めた。サバの漁獲主体はゴマサバ2004年級群であった。次いでマアジ699トン、マルアジ453トン、カタクチイワシ439トン、マルソウダ418トン、イワシ類(分類されていない統計分)334トン、ブリ(6kg以上の銘柄)322トン、シイラ252トン、マイワシ175トン、ウルメイワシ158トン、ワラサ(2~6kgの銘柄)155トン、イナダ(0.5~2kgの銘柄)154トン、スルメイカ154トンであった。漁獲量10トン以上の魚種の中で前年度と比較して漁獲が増加したのは、マルアジ(前年度比3.8倍)、イワシ3種合計(同3.4倍)、マルソウダ(同3.4倍)、イナダ(同3.4倍)、アオリイカ(同3.2倍)、ヒラソウダ(同3.0倍)、シイラ(同3.0倍)、サバ(同1.7倍)、スズキ(同1.6倍)、スルメイカ(同1.6倍)、メジナ(同1.6倍)、ヒラメ(同1.5倍)等であった。逆に減少した魚種は、ブリ(前年度比37%)、ワラサ(同50%)、ヒラマサ(同51%)、ヨコワ(同61%)、マアジ(同73%)、トビウオ(同76%)、ウスバハギ(同89%)、タチウオ(同89%)、カンパチ(同91%)等であった。

ブリ(6kg以上)の全漁獲尾数は42,110尾(前年

表1. 全漁場合計漁獲量

平成17(2005)年10月~平成18(2006)年9月			
順位	魚種名	漁獲量(kg)	相対度数(%)
1	サバ	1,393,879	22.998
2	マアジ	698,605	11.526
3	マルアジ	452,872	7.472
4	カタクチイワシ	439,141	7.245
5	マルソウダ	418,347	6.902
6	イワシ類	333,842	5.508
7	ブリ	322,345	5.318
8	シイラ	251,662	4.152
9	マイワシ	174,526	2.880
10	ウルメイワシ	157,740	2.603
11	ワラサ	154,763	2.553
12	イナダ	153,700	2.536
13	スルメイカ	153,555	2.534
14	イサキ	87,624	1.446
15	アオリイカ	73,619	1.215
16	その他アジ類	68,148	1.124
17	マダイ	56,523	0.933
18	ヒラソウダ	49,947	0.824
19	その他イカ類	45,406	0.749
20	タチウオ	44,037	0.727
21	カンパチ	32,814	0.541
22	イシダイ	30,460	0.503
23	フグ類	30,172	0.498
24	カマス	28,838	0.476
25	トビウオ	27,541	0.454
26	ウスバハギ	27,450	0.453
27	メジナ	25,640	0.423
28	カワハギ	24,692	0.407
29	スズキ	20,454	0.337
30	ヒラマサ	18,824	0.311
31	サワラ	13,122	0.217
32	ヨコワ	10,850	0.179
33	ヒラメ	10,406	0.172
34	マグロ類	7,794	0.129
35	ムツ	7,546	0.125
36	ボラ	7,217	0.119
37	ヤリイカ	6,318	0.104
38	ハガツオ	6,064	0.100
39	ウマヅラハギ	4,124	0.068
40	カジキ類	761	0.013
41	シマアジ	334	0.006
42	その他雑魚	189,213	3.122
合計		6,060,920	100.000

度比 34%) で、平成 15 定置年度の 123,070 尾、平成 16 定置年度の 126,105 尾を大きく下回り、平成 12 年度以来の低水準であった。漁場別では島勝の 9,819 尾が最高で、錦の 7,616 尾、阿曾の 6,823 尾と続いた。前年度に一漁場だけで 57,000 尾を越えた片田では 5,000 尾にも達しなかった。ブリのまとまった入網は春季に見られ、4 月～5 月に全体の 60%、2 月～5 月では全体の 94% が漁獲された。全漁場合計の最高尾数は 2 月 12 日の 3,328 尾、次いで 4 月 30 日の 3,120 尾、5 月 19 日の 3,011 尾、3 月 26 日の 2,286 尾、5 月 1 日の 1,984 尾であった。1 漁場における 1 日の最高尾数は島勝の 2,850 尾 (5 月 19 日)、次いで同じ島勝の 2,829 尾 (2 月 12 日)、阿曾の 2,342 尾 (3 月 26 日) であった。

ワラサ (2～6 kg 未満) の全漁獲尾数は 34,889 尾 (前年度比 47%) で、ワラサ高水準の平成元年度以降では平成 12 定置年度の 62,779 尾を下回る最低の漁獲尾数であった。ワラサの入網は秋季と春季にピークがみられ、10 月～12 月に全体の 50%、3 月～5 月に全体の 39% が入網した。全漁場合計の最高尾数は 11 月 30 日の 2,016 尾、次いで 11 月 27 日の 1,827 尾、3 月 21 日の 1,537 尾、3 月 1 日の 1,188 尾であった。1 漁場における 1 日の最高尾数は和具の 1,769 尾 (11 月 27 日)、次いで同じ和具の 1,740 尾 (11 月 30 日)、島勝の 1,459 尾 (3 月 21 日)

であった。

イナダ (0.5～2 kg) の全漁獲尾数は 126,227 尾 (前年度比 2.3 倍)、8 月と 9 月を入れない平成 15 定置年度までの集計では 98,763 尾で、過去 10 年で 4 番目の漁獲尾数であった。イナダ 2005 年級群のまとまった入網は 11 月～1 月と 3 月～4 月に見られた。特に年末年始に梶賀で約 15,000 尾、3 月末～4 月初めには和具で約 35,000 尾の集中漁獲があった。イナダ 2006 年級群のまとまった入網は 8 月末～9 月はじめに見られ、贅と島勝で合わせて約 25,000 尾の漁獲があった。

その他の魚種では、マイワシが平成 8 定置年度以降で最高の 175 トン、ウルメイワシが平成 6 定置年度以降で最高の 158 トン漁獲された。特に低水準が続いているマイワシは過去 5 年平均の 8.5 倍であった。

また、近年低水準のヤリイカが 6.3 トン漁獲され、極めて低水準であった前年度の 378 倍に達し、近年では平成 11 定置年度の 11.8 トンに次ぐ好漁であった。

関連報文

三重県：平成 17 定置年度三重県ブリ定置漁獲統計，
2007